

もり エコ森林通信 vol.4

～ドイツ人から見たエコ森林～



今回は、エコ森林隊のRがドイツ人の目から見たエコ森林についてお話しします。

エコ森林に行くことが決まったとき、私はとても興奮しました。なぜなら、その森はほとんど手付かずで、自然のままの状態で維持されていると聞いていたからです。当日は、夏の暑さも和らぎ、空気が澄んで、のんびり散歩するには絶好の日よりでした。いつの間にか私たちは急な坂道を登っていて、純粋な原野のように見える道を歩いていました。片手で蚊を撃退し、もう片方の手で滑らないように近くの枝につかまりながら、どんどん坂を登っていきました。少し立ち止まって周りを見渡すと、



山のふもとに流れる川。緑の中には『アキタブキ』の大葉
(赤丸の中がアキタブキ)

また、固有種ではありませんが、アジア地域に生育が限られているササ属も日本に来てから初めて目にしました。ササ属は日本ではかなり一般的で、珍しくもないと思われるかもしれませんが、私にとっては、毎回美しい光景を見せてくれる種です。移動中の道の周りには、ハナヒリノキなどの日本固有種がみられます。

最後には、気持ちの良い達成感で山の上までたどり着きました。皆さんも是非とも今年の秋の暖かい日差しと紅葉を楽しんでください！もしかすると日本の素晴らしい自然を改めて発見できるかもしれません。

日本の森のユニークさに改めて心を打たれました。私の周りには、これまで出会ったことのない植物がたくさんあることに気がつきました。ベルリン郊外に住んでいた子供の頃には見る機会のなかった植物たち。その一つである『アキタブキ』と言う植物は、葉っぱが大きくて分かりやすい植物です。その葉っぱが密生しているのを初めて見たときは、まるで映画「アバター」のワンシーンを歩いているような気分になりました。



山の上まであと少し